じぶん しゅうちょう

## 自分の ことしか 考えなかった 酋長

<sup>むかしむかし</sup> 昔々、アフリカの ある 村で、 で日照りが続いていました。村の **酋長は、自分の ことしか 考えない、** とても 身勝手な 酋長でした。 ひ しゅうちょう みず み ある日、 酋長は 水を 見つけたので、 自分のために 井戸を 掘りました。

しゅうちょう かぞくいがい 西長の 家族以外は、だれも、 この 井戸の 水を 飲むべからず。

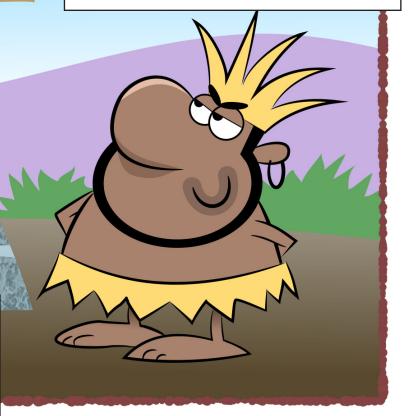
この 水を 飲もうとした 者は、

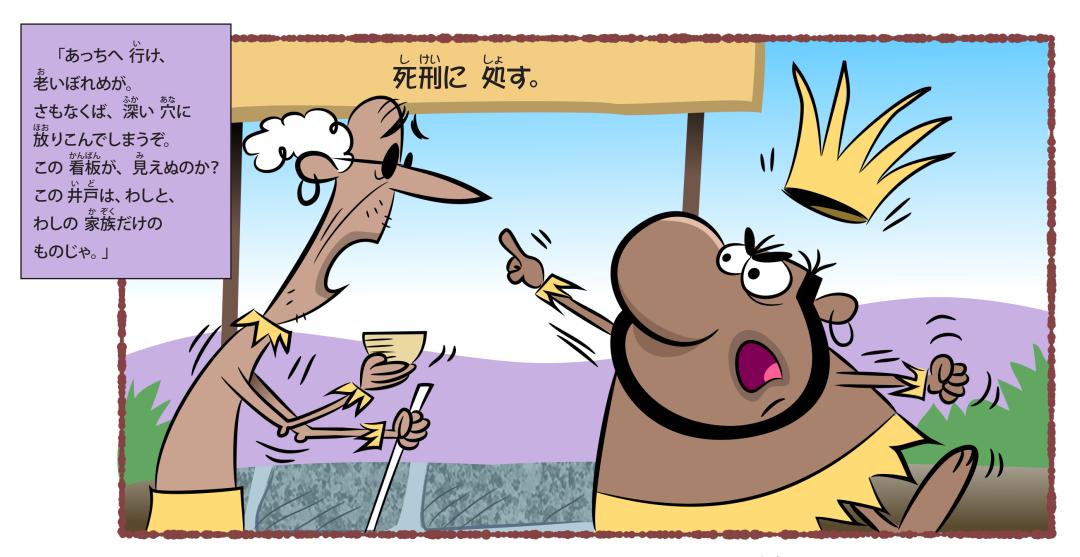
「ついに、わしの井戸が出来上がったぞ。 <sup>かんぱん</sup> た 看板を 立てておかぬとな。モナク、金づちを \* 持って来い。今すぐ、この 看板を ここに 立てるのじゃ。」

「かしこまりました、酋長。」 しもべは、井戸の上に木の看板を打ち つけました。そこには、こう書いてあります。

「よろしい! 今から わしには、必要な だけの 水が 手に 入るのじゃ。」







「それは それは、ご無礼を いたしました。わしは、首が 見えませんもので。」「そのような 言い訳は 通じぬぞ。今回は ゆるすが、二度と わしの 水をこいに 来るで ない。」

「もちろんで ございます。あわれみを、ありがたく 存じます。」
った。かの 日の ことです。 **歯長は バケツに 水を くもうとして、しもべと** 共に 共声に やって来ました。

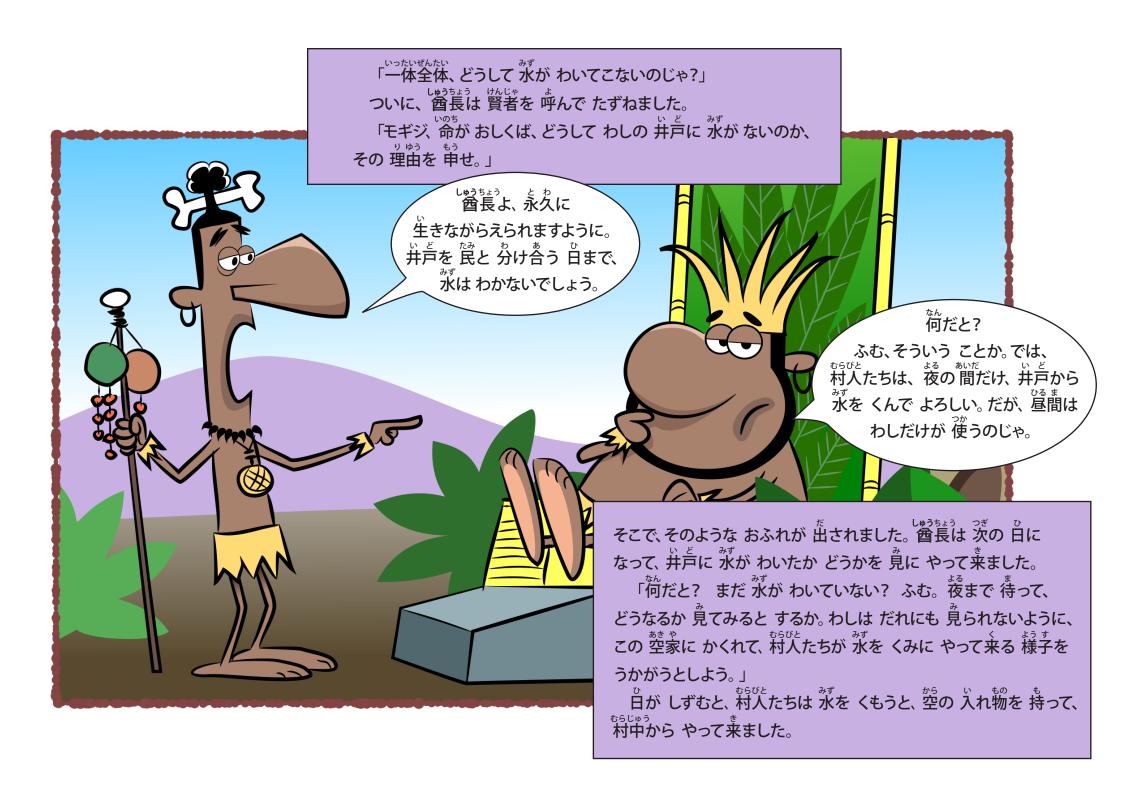
「モナク、バケツを 井戸の 中に 投げこむのじゃ。」

「かしこまりました、酋長。」

「な、なんと? 井戸に 水が ないだと?」

「一体、どういう ことじゃ?」

「ふむ。 何日か すれば、また 水が わくであろう。」 しゅうちょう まいにち い ど 酋長は 毎日 井戸に やって来ましたが、 水は ありません。



「神を ほめたたえよ! <sup>かず</sup> あるぞ!」

「何て冷たくて新鮮でいっぱいあるのかしら。さあさ、子どもたち。たくさんあるから、体もでからまで、持人たちはみんな、がかってきたかめにもいっぱい水をくみました。村の子どもたちはみんな、びしょぬれになるまで、からっからのまま、とまどいながらからっからのまま、とまどいながらいったので、はずかしくて村人たちに水をすることなどできませんでした。



次の 日に なり、太陽が のぼると すぐに、 **歯**長は しもべを ずんで 言いました。 「来い、モナク。 看板を 書きかえるのじゃ。 あ、いや、書きかえて もらえるかの?」

「かしこまりました、**酋**長。何でも お命じに なる 通りに 書きかえます。」

着板の ペンキが かわき かけてくると、地下から ぐんぐん 水が わき出る、 竹とも さわやかな 音が こえてきました。

「見よ、見てみよ、モナク! じきに、井戸が いっぱいに なるであろう。」



今まで、ふきげんで 意地悪で 自分の ことしか 考えなかった 歯長が、村人たちと じょうだんを 言い合って 笑いながら、いっしょに 水を 飲んでいるのを 見て、みんな、びっくりです。その日以来、井戸には 日照りの 間も ずっと、新鮮で おいしいきれいな 水が たっぷり わき続けました。その井戸は、決して かわくことの ない 井戸として、国中に 知られるように なりました。

作者不明 絵:ゼブ 制作:サイモン・ピーターソン Copyright c 2002 NMG Records 使用許諾取得済 "The Selfish Chief"--Japanese http://www.mywonderstudio.com/level-1/2013/1/30/the-selfish-chief.html